

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.119 (2026.2.27)

令和7年度スローガン
新たなるステージへの挑戦
～和賀組さんで良かったと言われよう～

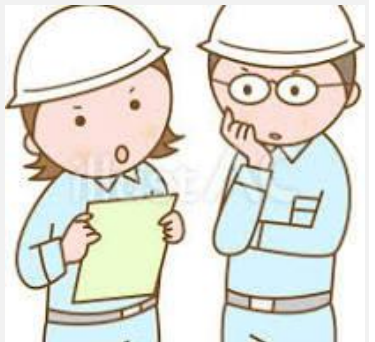
株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

建設業向けコンサルタントでハタコンサルタント(株)社長の降旗達生氏のメルマガに「その一言が若手を辞めさせる～上司の「言い方」が現場の未来を左右する～」という興味深い内容がありましたので皆さんに紹介します。ある調査で中途退社した若手社員の7割以上が「上司の言い方や伝え方が改善されていれば、退職や転職を思いとどまったかもしれない」と回答したそうです。実際に若手社員が「これだけは許せなかった」と感じた上司の言い方のランキングは以下の通りだそうです。

- 1位 「常識的に考えてわかるでしょ」→ 無知を責められたようで萎縮した
- 2位 「期待しているから頑張って」→ プレッシャーが強すぎる
- 3位 「他の会社じゃ通用しないよ」→ 自分の市場価値を疑うようになった
- 4位 「辞めたら逃げだ」→ 我慢を強要されているようで不快
- 5位 「前も言ったよね？」→ 自分が無能扱いされていると感じた

現代の若い世代は上司を「評価者」や「指導者」としてではなく、「伴走者（パートナー）」として見ていて、①相談しやすく、フラットな関係②上下関係はあっても心の距離は近く③情緒的なサポート④上司には気持ちのケアを求めている⑤公平性のある接し方などを望んでいるという事です。現場では指示・命令が多くなりがちですが、「なぜそのやり方が必要か」を丁寧に伝えることが重要であるともありました。例えば次の通りです。

- 「常識で考えたらわかるだろ」→「この仕事の意図をもう一度説明しようか」
「前も言ったよな？」→「たぶんまだ慣れてないと思うけど、確認しようか」
「逃げるのか？」→「今の悩み、どうすれば解決できると思う？」



目的は、若手が自ら考え、成長できる環境をつくること。そのためには「正解を教える」よりも「考えるきっかけを与える」言葉かけが効果的です。建設業界では、若手の定着が大きな課題となっています。「もっと報連相しろ」と若手に求める前に、「この人なら相談できる」と思ってもらえる上司であることが、第一歩なのかもしれません。言葉ひとつで、若手の未来が変わる。現場の空気も、働き方改革も、まずは「上司の言い方改革」から始めてはどうかとまとめています。第63期もあと一ヶ月、最後まで気を緩めずに無事故でゴールを切るように頑張りましょう。

美酒爛漫 秋田銘醸(株) 新年会



1月15日湯沢ロイヤルホテルにて開催された恒例の

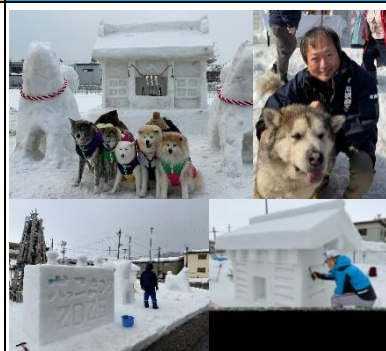
新年会は、来賓や社員40名ほどが参加して開催されました。京野学社長は、「コメ不足が深刻な状況が継続しているが、いち早く自社田での酒米の栽培を始めたことで影響を最小限にできている。今年も美味しいお酒を通じて笑顔と福を届けることを目指します」と挨拶されました。

首都圏ふるさと湯沢会



2月8日東京日暮里のホテルで第19回首都圏ふるさと湯沢会が開催されました。湯沢からは市長、市議会議員、私、佐藤養助こまち商工会会長などが参加し、ご挨拶の機会を頂きました。地熱発電所が次々と建設されていること、湯沢駅前に建設中の複合施設がYuinaxという名前に決まり11月にオープンする事。Orbrayが湯沢市に本社を建設し、数年後を目途に株式上場を目指していることなどを紹介させて頂きました。年々高齢化が進んでいる会ではありますが、皆さんふるさと湯沢を気にかけて頂いており、応援して頂く気持ちに感謝です。

犬っこ祭り



2/14-15 犬っこ祭りが開催されました。総合体育館西のメイン会場の犬っこ神社及び湯沢駅前の雪像制作に携わって頂いた社員の皆様寒い中本当にご苦勞様でした。本番は過去にない晴天に恵まれ多くの人出でにぎわいました。